

**第2期ロジスティクス環境会議
グリーンサプライチェーン推進委員会 第4回源流管理分科会 議事録**

I. 日 時：2007年4月12日（木） 16：00～18：00

II. 場 所：東京・港区 社団法人日本ロジスティクスシステム協会 会議室

III. 出席者：13名

IV. 内 容：

1) チェックリストについて

V. 開 会

事務局より開会が宣された後、以下のとおり議事がすすめられた。

VI. 報 告

事務局より、資料1-1、1-2、1-3に基づき、第4回委員会以降の経過、及び3月15日に開催された第2回本会議の報告が行われた。

VIII. 議 事

1) チェックリストの項目について

事務局より、資料2、参考資料2に基づき、各項目の検討に入った。

【主な意見】

(全般的な意見)

委 員：到達度合いを測るのではなく、前年度との進捗度合いをチェックしてもらうような設計方法もあるのではないか。

事務局：「到達度合いを測るツール作成」ということで検討を進めている。ただし、チェック欄の設計方法（現状では、“実施中/今後実施/・・・”）や、使い方の解説等の記載により、前年度との比較という方法を取ることでもできると考える。

委 員：当面の進め方として、チェック項目のみの検討を行うのか、チェック項目に対する評価方法も同時に検討をするのか教えていただきたい。

事務局：チェック項目を一通り検討した後、評価方法の検討に入りたいと考える。

(チェック項目12、13、14)

委 員：“パフォーマンス”や“LCA”という語句は一般的な用語かどうか教えていただきたい。

幹 事：パフォーマンスについては、環境省の「事業者の環境パフォーマンス指標ガイド」等でも使用されており問題ないとする。また、LCAについては、メーカー系では一般化しているとする。

(チェック項目15)

事務局：一般的に考えると、自社→グループ企業→取引先→業界団体というように取組の範囲が進むのではないか。

委 員：難易度を考えると、取引先よりも業界団体の方が共同での取り組みは容易と考える。

幹 事：企業のマネジメントの見地で考えると、自社→グループ企業→取引先→業界団体だと考える。

(①環境意識の向上)

幹 事：チェック項目 1 から 15 に対し、“①環境意識の向上” という中分類のタイトルが違和感を覚える。

(チェック項目 19)

委 員：洗車場の排水処理等もあることから、「水質汚濁防止・軽減の施策を実施している」を追加してはどうか。

(チェック項目 20 から 25)

幹 事：強度、容積、重量といったもので細かく分けるべきかどうか議論が必要だと考える。

委 員：製品によって、容積勝ち、重量勝ちといったことがあることから、原案どおり分かれていますほうが回答しやすいと考える。

委 員：容器包装リサイクル法の規制も考慮した設問が必要ではないか。

幹 事：包装の目的として、①輸送中の衝撃、温湿度等に対し、商品の変質防止のため、②輸送効率を上げるため(→輸送モードの内寸に合うような商品開発等)という 2 点がある。また、包装資材レスの記載も必要ではないか。

事務局：包装そのものについては、2.1 活動の中に項目が設けられており、ここでは中身となる製品の開発(≒物流部門から設計部門に働きかける内容)についての項目を記載している。

幹 事：製品開発の際にリサイクル材を使用するといった視点も必要ではないか。

事務局：チェック項目 24 が該当すると考える。

幹 事：開発については、あくまでも物流に影響する部分に限定した方がいいのではないか。例えば、24 の内容は、環境意識の向上に繰り上げるべきではないか。

委 員：チェック項目 25 は物流部門では回答できないのではないか。

委 員：当該部分は製造業のみ該当することから、例えば、全員回答/製造業/物流業と分類があると分かり易いと考えます。

(チェック項目 30)

委 員：「平準化のためにジャストインタイム」は違和感を覚える。

幹 事：「平準化をした後、それを時間どおり持つてくること」が鍵になっている。したがって、チェック項目 29 で代替できると考える。

(チェック項目 32、33、34)

委 員：メーカーの立場で考えると、“削減”よりも“抑制”の方が表現としてふさわしいと考える。

幹 事：返品は重要な問題であるが、3 項目も必要かどうか疑問である。

事務局：①文書化(チェック項目 33)、②経済項目(チェック項目 32、34)の 2 つの視点で書かれているので、32、34 を集約することも一案である。

委 員：日雑では、歩引きは現実性がない。返品入所価格というやり方でやっている部分もある。

幹 事：返品物流の効率化のための共同化は必要ではないか。

委 員：ここではあくまでも商取引の適正化という項目であるため、1.6 に入れるべきではないか。

(チェック項目 35、36、37)

委 員：チェック項目 37 は、35 で包含できるため、削除してはどうかと考える。

委 員：チェック項目 36 が環境負荷低減につながるかどうか、判断が難しい。

事務局：「カテゴリー別の方が輸送効率を向上させやすい」ということで、原案では掲載した。

委 員：広い意味で考えると、35 に包含できるのではないか。

(チェック項目 40、41、42)

委員：メーカーであれば何かしらの形で需要予測を行っていると思われるが、需要予測実施の有無を物流部門が把握しているかどうか疑問である。

幹事：「④情報化の推進」とあげながら、チェック項目 40 の 1 項目だけでいいか疑問である。

委員：チェック項目 41、42 も情報化の推進に含まれるため、まとめてはどうか。

(チェック項目 44)

委員：包装用機器の標準化等の意味が分からない。

(チェック項目 45)

委員：“積み合わせ”という語句を用いると、“積合貨物輸送”とイメージが重なる回答者も出てくる恐れがあるのではないか。

(チェック項目 46)

委員：保管効率の向上のみならず、電力使用量や輸送という面でも効率化につながると考える。

(チェック項目 47～53、55)

委員：チェック項目 48 以降で代替できるため、削除しても問題ないとする。

委員：包装材のリターナブル化といった項目が必要ではないか。

事務局：リターナブルという語句は用いていないが、チェック項目 55 で記載されている。

委員：折りコンを包装資材ではなく運搬容器とする考え方もあるのではないか。

幹事：チェック項目 49 と 50 は同じ意味ではないかと考える。

委員：アクションとしては異なるので、分けたままでよいのではないか。

【決定事項】

- ・チェック項目 12 から 53、及び 55 の見直しがなされ、別紙 53 項目となった。(別紙参照)
- ・以下の項目については、事務局で原案を作成し、次回委員会前に提示することとする。
 - ①チェック項目 1 から 16 の小分類タイトル
 - ②チェック項目 20 から 25
 - ③チェック項目 31、32
 - ④チェック項目 40 から 42
- ・チェック項目 44 については、事務局で設問意味を確認する。

2) その他

第 5 回分科会については 5 月 17 日 (木) 16 時～18 時で開催することとなった。会場等の詳細は別途連絡することとする。

VIII. 閉 会

以上をもって全ての議事を終了した。

以 上